

千葉大学医学部附属病院で胎児発育不全と診断された 患者の皆様、ご家族の皆様へ

2026年3月24日

産科・婦人科

産科・婦人科では、胎児機能不全を呈さず後期早産期以降に分娩となった small for gestational age (SGA) 症例における新生児予後の検討を行っており、以下に示す方の診療情報等を、本文書の公開日以降に利用させていただきます。研究内容の詳細を知りたい方、研究に情報を利用して欲しくない方は、末尾の相談窓口にご連絡ください。

本文書の対象となる方

2022年7月1日～2025年7月31日の間に、妊娠34週以降で当院で分娩され、妊娠中に胎児発育不全と診断された方

1. 研究課題名

「胎児機能不全を呈さず後期早産期以降に分娩となった small for gestational age (SGA) 症例における新生児予後の検討」

2. 研究期間

2026年承認日～2028年3月31日

この研究は、附属病院観察研究倫理審査委員会の承認を受け、病院長の許可を受けて実施するものです。

3. 研究の目的・方法

本研究は、おなかの中で赤ちゃんの発育がやや小さいと指摘されたものの、母体や赤ちゃんの状態が安定していたため妊娠後期まで経過をみることができた方を対象に、生まれた後の赤ちゃんの状態について調べることを目的としています。この研究により、赤ちゃんが小さいと指摘された場合でも、どのような経過であれば安心して妊娠を継続できるのかが分かるようになります。これにより、将来同じような状況の方に対して、より適切で安全な妊娠・出産の判断につながることを期待されます。

方法としては、これまで当院で出産された同様のケースについて、診療録（カルテ）の情報をもとに、お母さんの背景や妊娠中の経過、出産時の状況、出生後の赤ちゃんの

様子や合併症の有無などを振り返って解析します。なお、新たに検査や治療を行うことはなく、通常の診療で得られた情報のみを用いて検討を行います。

4. 研究に用いる情報の種類

診療録に記載されている年齢、妊娠中の産科合併症、胎児合併症、超音波の見え方、分娩週数、生まれた子の体重、生まれた子の合併症

5. 研究組織（情報を利用する者の範囲）

【研究機関名及び本学の研究責任者名】

研究機関：千葉大学医学部附属病院

研究責任者：産科・婦人科 助教 尾本暁子

6. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた情報は、氏名等の個人を特定するような情報を削除し、どなたのものかわからないように加工して、千葉大学医学部附属病院産科・婦人科において厳重に管理します。研究結果を学術雑誌や学会で発表することがありますが、個人が特定されない形で行われます。

本研究についてご希望があれば、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で、研究計画書及び研究の方法に関する資料を入手又は閲覧する事ができますので、相談窓口までお申し出ください。個人情報の開示に係る手続きの詳細については、千葉大学のホームページをご参照ください。

(URL : <http://www.chiba-u.ac.jp/general/disclosure/security/privacy.html>)

7. 研究に関する相談窓口について

研究に情報を利用して欲しくない場合には、研究対象とせず、原則として研究結果の発表前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口までお申し出ください。情報の利用をご了承いただけない場合でも不利益が生じる事はありません。

その他本研究に関するご質問、ご相談等は、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

相談窓口

〒260-8677

千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学医学部附属病院（病院長：大鳥 精司）

産科・婦人科 医員・特任助教 安部真希子

043（222）7171 内線 5314